

不土野

FUDONO

西の玄関口



地区の概要

不土野地区は不土野上、坂本、不土野中、不土野下、古枝尾上、古枝尾下の6集落から構成されており、人口は約120名です。椎葉村の西側に位置し、熊本県水上村と隣接しています。産業はミニトマトや七草などの施設園芸が盛んです。地域独自の取り組みとして、歌謡選手権の開催や不土野小学校の子ども落語などがあります。



地区の未来像

アットホームで
笑顔あふれる
不土野地区



作成の過程

地区住民なら誰でも参加できるワークショップ「不土野みらい会議」を2回行いました。その後、役員会などの皆さんと打ち合わせを2回行い、地区住民による内容の校正を経て完成しました。



プロジェクト

01 空き家の未来のドアを開けよう in 不土野

概要

空き家利用を含めた地区での住居の確保について、行政と連携しながら進めていく。特に県道沿いの空き家については重要度が高いため、重点的に取り組む。

目的

これから不土野に住む人のために空き家を活用して住居を確保したい。

実施体制



プロジェクト

02 富士野もりあげ隊

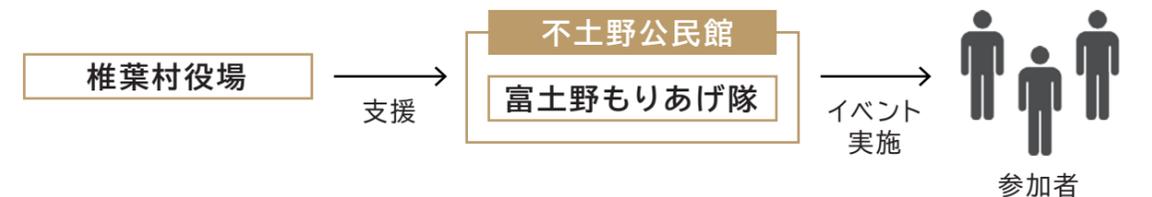
概要

歌謡選手権をメインとした公民館主催のイベントの体制づくりを行い、イベントの安定的な実施や質の向上を図る。

目的

地域住民の楽しみや外部との交流の機会をつくるため、今後もイベントを継続的に実施していきたい。

実施体制



03 無人販売所をつくろう

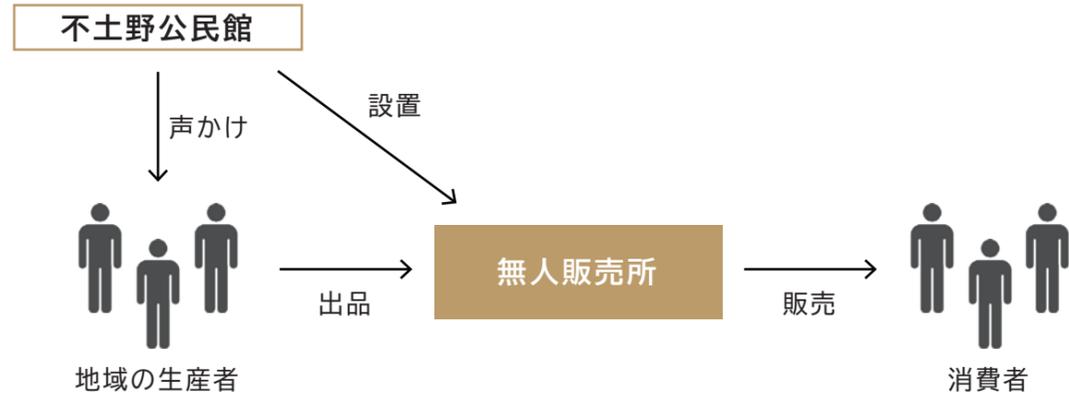
概要

無人販売所を設置し、農産物を販売する。加工品は許可が必要なため、手軽に取り組める野菜、乾物、木工品などから始める。当面の目標として、常に何かを販売している状況をつくりたい

目的

地域の農産物を収入に変えることで生活の楽しみにしたい。

実施体制



メモ

地域住民の声

大学を卒業後は県外や宮崎市で働いていましたが、30代半ばで椎葉に帰ってきました。都市部ではご近所とも付き合いがなく、隣に住む人が誰だかわからないような暮らしをしていたので、椎葉に戻った当時は地区の人との結びつきがあたたかく、まさに「かて〜りの里」だと実感したものです。

今回の不土野みらい会議では、正直何から考えて進めていけばいいのかと迷いもあったものの、多くの人が集まってみると様々な考えが出てきて、それらを3つのプロジェクトとして集約することができました。

不土野地区では年間を通して季節の祭りを催していますが、その中でも歌謡選手権にはさらに力を入れて取り組みたいと思っています。イベント開催は大変なことも多いのですが、地区内外から楽しみに参加してくれる人が年々増え、皆さんの喜びの声が地区の活力にもなっています。他にはない不土野独自の取り組みとして、自信を持てるものとなりました。

「富士野もりあげ隊」としてさらにそれらを盛り上げていく上で、あえて不土野の頭文字を「富」とし、多彩な楽しみに富んだ豊かな郷土として、皆が一つになれるような地区づくりを目指していきたいです。



館長の想い
椎葉 武仁 (しいば たけひと)



廣末 ツユ子 (ひろすえ つゆこ)

高校時代を宮崎市で過ごし、その後に帰郷して以来ずっと不土野に住んでいます。何もないけれど、静けさがあって、地域には親しい人がいて、穏やかに暮らせる場所がここにはあります。

そんな住みなれたこの地区の姿も、年々変わりつつあります。以前は多かった隣近所も、次第に電気の点かない家が増えていき、寂しく思います。

そんな中今回の会議で、自分たちで無人販売所の設置を試みようかと企画しました。家で作った野菜を自分たちだけで食べるよりも、誰かが美味しいねと食べてくれる輪が広がればとても嬉しいです。小さなことでも始めれば、コツコツとやっていくうちに知恵も出てきて、考えも増えてくるのではないかと思います。最初の土台づくりとして、まずはその一歩を、少ない人数でも声を掛け合って始めていきたいです。

無人販売所を通して、少しでもいいから商品を出し合うことで生産者同士の交流も生まれ、自分の懐も少し潤い、回り回って皆の気持ちも幸せになればいいなと思いついています。